



マレーシアの人々

藤林 彩乃

私はマレーシアに行く前、イスラム教を信仰している人々が多いことを知っていたことから、メディアで見ていた過激派イスラムの思想を持っている人が多いのではないかと予測していた。そのため、正直マレーシアに行くことが怖かった。しかし、実際マレーシアに行ってみると、イスラム教だけでなく、仏教やヒンドゥー教といった多民族国家が故に様々な文化を受け入れ、個々の文化を尊重している人々に出会った。現地の人々の暮らしを知るためにホームビジットを行ったり、中学校を訪問して同年代の学生たちと交流することを通して、人々の温かさや日本に対する想い、自分が知らない日本の文化を知りたいという気持ちが言語が分からなくても、伝わってきた。私は大学で日本文化を学んでいることから、普段から日本文化を学んでいる。その中で茶道や華道の免許を私は取得したことから、授業の中で生けた華道の写真や自分のお点前の様子を動画で見せた。そうすると、現地の人々は自分の知っている言葉で「I like Green tea」と言ってくれて、さまざまな質問を私にしてくれ、質問が途切れることがなかった。私は、これまで自分の好きなことを大学でも学びたいというシンプルな思いで日本文化を学んでいたが、こんなにも興味を持ってくれていることに驚きと感謝でいっぱいだった。この光景を見て、高校時代に知り合った日本に留学をしていた韓国の友人が「自国の文化を理解していない限り、他国のことを真に理解することはできない」と言っていたことを思い出した。この言葉を初めて聞いたときは流れるように聞いていたが、時間をおいて改めて考えると今回のマレーシアで出会った人々の行動と韓国の友人の言葉が重なり、私は今までも今回も本当に貴重な体験をさせていただいたのだと実

感じた。マレーシアに行く前は、国のことも現地の人のことも『恐ろしい』と怯えていたが、帰ってきた時は「彼らに出会えてよかった」という気持ちがある。現地に行って自分の目で見ることで今までの勘違いや固定概念を壊すことができると改めて学んだ。